

## 震災…涙ぐむ転入生

震災後、浜通りから転入生がありました。落ち着いた生活をしており元気のように見えますが、個別に「大変だったね」と話しかけますと涙ぐみます。そんな様子を見ると、その後の言葉が出てきません。好ましい対応を模索しています。

(福島市・中学校教員)

あります。家族も同様です。

ある中学生は「生まれてこれほど一生懸命走ったことはなかった」と言っていました。津波に追われてです。また、ある先生は母親と娘を亡くし「自分だけ生きていて良いのかという気持ちで頭から離れない。毎日の授業がつらい」と語っています。「家に戻りたいが戻れない。子どもに苦労をかけたくない」と話す親にも出会いました。

好ましい対応なんて考える必要はありません。気持ちを察して、ただ誠意をも

## 回答者

学校心理士

臨床心理士

海野 和夫

生徒に対する  
誠実な関心を

私も浜通り地方の学校の生徒たちや先生方と言葉が交わす機会がありました。が、被害は甚大で、その人たちの心の痛手は計り知れません。その生徒、先生にしか分からない苦難の中に

って寄り添い、傾聴を心がけることだと思います。

なお、「がんばれ」という根拠のない抽象的な激励、「大丈夫」という気休めの発言、「できることだけをやればいい」というディスカウント（能力の過小評価）は禁じ手です。生徒に対する誠実な関心を大切にしてください。